

本稿は、バンク・オブ・アメリカが2015年2月17日に発表した英文プレスリリースを翻訳したものです。英文の原文と翻訳内容に齟齬がある場合には原文が優先します。なお、英文プレスリリースは、バンク・オブ・アメリカのニュースルーム <http://newsroom.bankofamerica.com> でご覧いただけます。

平成27年2月18日

報道関係者お問い合わせ先：
メリルリンチ日本証券 広報部
03 6225 7550

**BofAメリルリンチファンドマネジャー調査：
ECBの政策発表を受け、欧州への強気が熱を帯びる**

中国経済後退観測の世界経済見通しへの影響は限定的

[ニューヨーク、2015年2月17日] - バンクオブアメリカ・メリルリンチが発表した2月のファンドマネジャー調査によれば、欧州中央銀行(ECB)が域内の景気浮揚を狙いとする量的緩和を発表したのを受け、グローバル投資家の間では欧州の先行きに対するポジティブな見方が大きく高まっています。

欧州の企業利益見通しは2009年以降で最も好調と回答者はみえています。差し引き81%の欧州地域の投資家が欧州経済は今後1年間に「強まる」と予想しています。こうした中、過去最多の差し引き51%が今後1年間に最も選好する株式市場に欧州を挙げました。1月の差し引き18%から大幅な増加です。差し引き55%はすでに欧州を「オーバーウエート」としています。

物色の矛先がシフトしたあおりを最も受けているのは米国です。米国株を「オーバーウエート」としている回答者は差し引き6%と、前月から18ポイント減少しました。

全体としては、株式(「オーバーウエート」は差し引き57%と前月比6ポイントの増加)とキャッシュ(「オーバーウエート」は差し引き22%と前月比5ポイントの増加)の配分が揃って拡大する一方、債券の配分が減少しています。債券については、差し引き79%が過大評価されていると判断しています。また、債券は今年のボラティリティの高まりに対して最も脆弱な資産クラスと受け止められています。

欧州に対する強気の大きな盛り上がりとは裏腹に、世界経済見通しはほとんど変化していません。これは中国の見通しの弱まりを反映しています。今月の調査では、差し引き58%の回答者が中国経済は今後12ヵ月間に「弱まる」と予想しています。本調査における中国経済の見通しとしては、ほぼ2年ぶりの弱い水準です。

BofA メリルリンチ・グローバルリサーチのチーフ・ストラテジスト、Michael Hartnett は、「ECB は世界的なデフレ不安を抑え込むことに成功し、2月のリフレ相場復活のきっかけを作った。」と述べています。欧州株/クオונツ・ストラテジスト、Manish Kabra は次のように述べています。「欧州株に対するセンチメントはファンダメンタルズに先回りする格好となっており、弱気派は完全に姿を消したかのようだ。強気派をつなぎとめるには直ぐにも大幅な回復が現実のものとなる必要があるだろう。」

ユーロ圏が独走

投資家の間で新たに盛り上がりを見せる欧州への強気はユーロ圏に集中しており、ユーロ圏以外の市場は敬遠されています。前月の調査で最も敬遠したい地域に挙げられたのはフランスとイタリアでしたが、今月は差し引き42%の地域ファンドマネジャーが今年、英国とスイスを「アンダーウエート」にする考えを示しました。また、スウェーデンに対するスタンスもネガティブに転じました。

欧州の地域投資家の間では自動車セクターが人気化しています。前月と比べて12%ポイント増加の差し引き26%が自動車セクターを「オーバーウエート」としています。旅行及びレジャーも人気を集め、10ポイントの増加でした。

対照的に、銀行と保険に対するセンチメントは著しく弱まりました。それぞれ前月比で32%ポイント、20%ポイント悪化し、いずれも「アンダーウエート」に転じました。公益事業は現在、欧州で最も人気の低いセクターとなっています。

インフレ期待を喚起

ECBの量的緩和の発表を受け、ユーロ圏のデフレ懸念は後退しました。実際、インフレ期待は上向いており、世界のコアCPIは1年後に上昇すると予想するファンドマネジャーは差し引き29%と、前月の差し引き14%から増加しました。

地政学的危機の恐れが最大のテール・リスクになったと回答者が考えていることは明らかで、3人に1人がこれを最大の懸念材料に挙げました。

金が再び輝く

中国の見通しの弱まりがグローバル新興国株(GEM)の重石となっていますが、GEMをネットで「アンダーウエート」としているのは差し引き1%と、1月と比べて12%ポイント減少しました。

金に対するセンチメントも改善しています。40%の回答者が金価格は12ヵ月後に上昇すると予想しています。前月の調査では、弱気派が強気派を依然上回っていました。

金は過大評価されていると判断しているのは差し引き3%にとどまります。つい12月には差し引き20%に達していました。

多くの投資家が原油は割安と引き続き考えています。原油は過小評価されていると判断しているのは差し引き39%と、1月と比べて若干の減少にとどまりました。

BofA メリルリンチファンドマネジャー調査

2月調査は2月6日から12日までの期間に実施されました。全体で196人の機関投資家が参加し、これらの機関投資家の運用資産総額は5,590億ドルに達します。その中でグローバルな質問に回答した機関投資家は157人で、運用資産総額は4,590億ドル。特定地域の質問に回答した機関投資家は93人、その運用資産総額は2,040億ドルでした。調査はBofA メリルリンチ・リサーチが市場調査会社のTNSの協力の下に実施しました。TNSは50カ国以上を網羅する自社の国際ネットワークを通じ、80カ国以上で国内・国際組織にマーケット情報を提供している世界第4位のマーケット情報グループです。

BofA メリルリンチ・グローバルリサーチ

BofA メリルリンチ・グローバルリサーチは世界の3,400銘柄を超える株式と約1,100銘柄超のクレジットを調査対象とし、多くの機関によるランキングで上位に選出されています。直近では、インスティテューショナル・インベスター誌の2014年世界の調査部門第1位、2015年All-Europe Fixed Income調査で第1位、2014年All-Europe調査で第1位、2014年All-Asia調査第1位(4年連続)、2014年欧州・中東アジア新興国調査で第1位、2014年のAll-America調査で第2位に選ばれました。また、同誌の2014年のAll-China調査で第2位、2014年のAll-America Fixed Income調査で3年連続の第2位となりました。

バンク・オブ・アメリカについて

バンク・オブ・アメリカは世界最大の金融機関の一つであり、個人、中小企業、機関投資家、大企業及び政府を顧客とし、銀行業務、投資業務、資産運用業務、その他の財務管理及びリスク管理のための商品やサービスを幅広く提供しています。約4,800店のリテール銀行支店、約15,800台のATM、また現在3,100万人のユーザーが利用し、受賞歴もあるオンライン・バンキング、1,700万人以上が利用するモバイル・バンキングを通じ、約4,800万の個人や小規模企業の顧客と取引を行っています。バンク・オブ・アメリカは世界有数のウェルス・マネジメント会社であるとともに、企業金融、投資銀行、広範な資産クラスにわたるトレーディングにおいても世界的なリーダーであり、世界中の企業、政府、機関、個人などにサービスを提供しています。同社は、革新的でありながら利用しやすいオンラインの商品やサービスにより、約300万人の小規模事業主の顧客に対して業界有数のサポートを提供しています。バンク・オブ・アメリカは40カ国以上で顧客事業を展開しています。バンク・オブ・アメリカ・コーポレーションの株式(取引略号:BAC)はニューヨーク証券取引所に上場されています。

バンクオブアメリカ・メリルリンチは、バンク・オブ・アメリカ・コーポレーションがグローバル・バンキング及びグローバル・マーケット事業を行うための営業上のブランド・ネームです。貸出、デリバティブなどの商業銀行活動は、バンク・オブ・アメリカ・コーポレーションのバンキング関連会社を実施しています。これには、FDIC加盟銀行のバンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイが含まれます。証券、財務アドバイザーなどの投資銀行活動は、バンク・オブ・アメリカ・コーポレーションの投資銀行関連会社(投資銀行関連会社)が実施しています。これには、メリルリンチ・ピアース・フェナー・アンド・スミス・インコーポレーテッドが含まれ、これらはFINRA(米国金融取引業規制機構)及びSIPC(米国証券投資者保護公社)加盟の登録ブローカーディーラーです。投資銀行関連会社が提供する投資商品はFDICの保険対象ではなく、損失が生じることがあり、銀行による保証はありません。

バンク・オブ・アメリカのさらなるニュースについては、バンク・オブ・アメリカのニュースルーム (<http://newsroom.bankofamerica.com>) をご覧ください。

www.bankofamerica.com